

広報かわにし

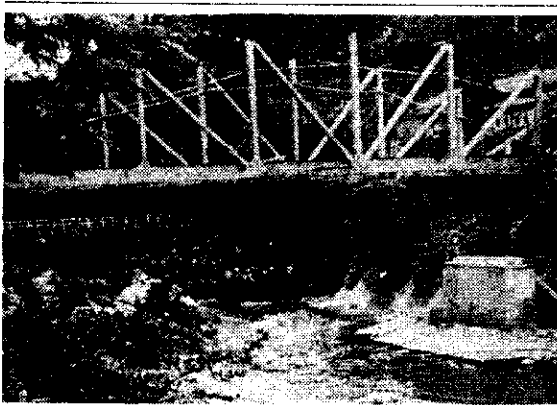
発行所	川西町	役場
編集人	川西町	吉田
印刷所	中村	四郎
印刷部	星南	風五
定価	1部	5円
人口	1,081	世帯数
男性	629	人口
女性	452	人口
計	1,081	人口

当面の教育

川西町教育長 杉本春三郎

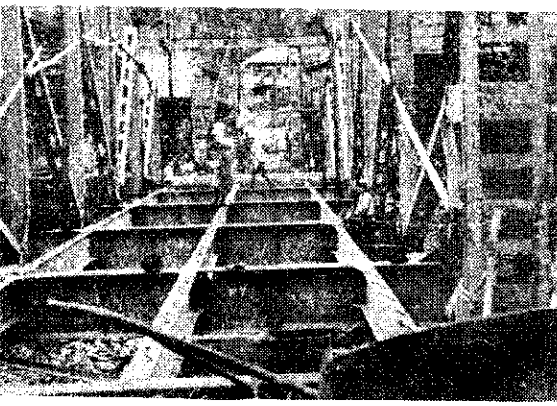
本年度の教員異動は、町内小学校十カ校で百二十二名の教員中三十二名という大きな異動でありました。全国的な傾向として小学校の児童数は年々減少し、これに反し中学校の生徒はここ数年間急増するのであります。当町でも、前年度に比べると小学校では四学級減の五十九学級となり、中学校は三学級増の三十学級となったのであります。

本年度から小学校の教育内容が全面的に改正され、新しい教科書が使用されております。中学校は三十七年度から、高等学校は三十八年度から改定されることになっております。四月から実施された新教育課程改定の基本方針として、①道徳教育の徹底、②基礎学力の充実、③科学技術教育の向上、④地理歴史教育の強化、⑤授業時間の確保等の諸点があげられますがこの趣旨にもとづいて、地域の事情や学校の実態に即した教育がなされるのであります。



本年度の問題、学校建築や教材教具の整備等は当面の重要問題であります。本年度から千手・上野の両中学校が統合して川西中学として発足し、また、六月一日から田戸分校が本校に統合してそれぞれ適正な規模になりましたことは、町の教育上まことによろこばしいこととあります。今後は冬季分校の統廃合、仙田中学校分校の統合

もうすぐ永久橋が建設のツチ音が山あいにごだまし、仙田橋のかけかえ工事はいま急ピッチで進められている道行く村人は足をとめ、組み立てられていく巨大な鉄骨に目を見はるばかり。7月上旬には完成の予定だという。 6月3日



等が残された問題であります。社会教育の面におきましても、五月から社会教育主事が設置され関係職員も増員されて着々その基礎をかためております。赤岩、上野の婦人学級も活発な活動を続けているのであります。町民各位のご理解と、ご協力をお願いいたします。

上野に 婦人学級

現在の上野地区は、渡辺愛子学級長ほか百六十六名という大世帯であるが、一般教養(九十四名、月二回) 料理(五十五名、二つのグループに分かれて毎月一回ずつ) 茶道(十二名、月一回、千手と橋からも参加) 花道(二十五名、月一回、千手と橋からも参加) の各部に分かれ、コース別の学習を行なって効果をあげている。なお、グループに所属していなくても、学級

をあげて順調にすべり出した。赤岩校区に婦人学級が開設されたから、上野の婦人たちの間でも「セヒ婦人学級を」という声が高まり、婦人会や若葉会などの団体が三月以来話し合い、婦人会が中心になって希望者をまとめ教育委員会にて開設を申請したというわけ。婦人たちの熱意にほだされた教育委員会では、関係機関と協力してこの婦人学級を育成していくことになった。

新しい農休日

現在は、レジャーブームとかきかんにマスコミがはやしたてている。ところがレジャーブームをよそに農村の生活は、仕事に明け暮れ、それでおお生活が楽でなく、仕事もつらい。農繁期ともなれば老人も子ともみんな仕事にかり出される。主婦も家事に手が回らなくなり、農繁期には体重の減少が著しいという。

町づくり

沖立部落で青年たちの熱意と村の人たちの協力のもとに実現の運びになったことは、まことにうれしく意義深いことである。毎月一日を農休日として部落全体、休暇を楽しまうことその成果を期待してやまない。まず一番にこの日を喜び、意義あらしめるのはおかあさん方、お嫁さん方であると、思ふ。どうかうんとからだを、心を休めることを望んでやまない。

町議会報告

田戸分校の廃止を議決

敷地の買収(川西中)で波乱も

本六回町議会臨時会は五月十七日にひらかれ、①生活が困窮となつた者に町税減免の決定をすること、②川西町職員定数条例の一部を改正して社会教育主事を設置すること、③川西中学校の敷地を買収して町有財産とすること、④中仙田小学校田戸分校を廃止して本校に吸収すること、の四議案を審議し、つめかけた傍聴人(清水タカさんほか十二名)の注視する中で活発な質疑討論を行つたのち、いずれも原案どおり可決して午後三時四十七分に散会した。

この日はまず、開議に先だつて中村町長から「広報などでご承知のとおり、五月一日に機構の改革を行つた。課制にしたが、急激に仕事を替へると事務に支障をきたすので、従前の係をできるだけ現状に合わせるようにした。教養と財政の両課長は、適任者がないので現在まだ欠員中である。社会教育主事にはこの春資格を取得した金子幸作氏を任用したのであるが、きょうはその設置についてお諮りしたい。住民相談室の設置は、条例が間に合わないのと才二次の異動で行ないたいと考えている」と所信が述べられ、次いで、こんどの異動で庶務係長に栄転した前事務局長の小川伊作氏と新しく議会議長となつた丸山精二郎氏からそれぞれあいさつがあり午前十時二十二分、小林議長が開議を宣して開会した。

社教主事に

金子 子 氏

才一号議案の町税減免は、火災

資産税十万三百五十円が免除されている。

才二号議案である職員定数条例の改正は、これまで教育委員会の事務職員であつた金子幸作氏を、専門職である社会教育主事に任用替へるために行なわれたもの。

杉本教育長から設置についてのこまかな説明があり、満場一致で承認して定数条例の中に新しく「社会教育主事一名」の条文が加えられた。この結果、教育委員会ではただちに金子氏を社会教育主事に任用した。なお、社会教育主事の施設にもなる費用は、国が毎年四十六万円を積算(地方交付税)して交付することになっている。

実坪当たり

千七百円で買収

才三号議案は、川西中学校の敷地を買収して町有財産とすること

その他の事由で生活が著しく困窮となつた三世帯(上野一・千手二)に、本年度の固定資産税を免除しようというもの。合わせて一万五千九百三十円の税が免除されることになつた。なお、これとは別に、町の税条例才六十六条の規定(町長の専決)によつて、生活扶助を受けている四十七世帯の固定

社会教育にすべてを

川西町社会教育主事 金子 幸 作

このたびはからずも、社会教育主事として勤めさせていただくことになりました。もとより平凡な人間であることを自覚し、言行をつつし、町の社会教育にすべてをかたむける覚悟でございます。どうぞ、よろしくご支援のほどをお願いいたします。幸い、本紙の編集は星名四郎主事がなつてくださることになりました。氏のすぐれたセンスが、毎号すばらしい広報を生み出して

であつたが、中村町長が、三十一人の地主と再三話しあつてようやく歩み寄つたいきさつを報告したところ、「買収費が高すぎる」として緊迫した空気に包まれる一幕もあつた。というのは、地主側は当初から坪当たり三千円を要求したのに対し、敷地買収委員会では坪当たり一千円を主張していた交渉が、ついに萬策つきてその中間をとり、実坪当たり一千七百円の価格で協定したからである。が、結局、「ガタン」ともいわないりつぱな統合であることを県も認めてくれたのだから、という小林議長の調整発言もあり、協約書のとおり実坪あたり一千七百円で買収することを可決した。これにより川西中学校敷地用地約六千九百坪のうち、民有地約六千六百坪を坪当たり一千七百円で買収することになったわけである。この買収費について中村町長は、「郵政省から一千万円の低利資金を借り入れ」と言明した。

田戸分校に

歴史的な幕

才四号議案は、懸案の中仙田小学校田戸分校を廃止して本校に吸収しようというものであつた。当時(この議会のあつたころ)、田戸分校には二名の教員が配当され一・二・三年(十六名)と四・五・六年(二十二名)を、それぞれ三部複式という気の毒な状態で受け持っていたし、また、本校である中仙田小学校でも一・二年(三十四名)と四・五年(三十八名)が複式、三年(二十七名)と六年

(二十二名)だけがよろやく単式という学級編成であつたから、やがては三学級の複式という最小規模の学校になることは必至であつた。そこで、すみやかに本校へ吸収して教育の実をあげようということになつたもの。川西中学校の統合は円満に解決した。そして、町の教育委員会が次に考へていたのは田戸分校の廃止であり、このことが仙田地区の学校統合に手をふれる第一歩であつたわけ。田戸の人たちが「大乗の見地に立つて承知してくれた」ことについて杉本教育長から報告があり、満場一致で廃止を議決した。

自衛官志願案内

- ▼採用予定人員
 - 二等陸士 約五〇〇〇名
 - 二等海士 約一五〇〇名
 - 二等空士 約一四〇〇名
- ▼受付期間
 - 六月一日から七月十五日まで
- ▼応募資格
 - 昭和三十六年九月一日現在で十八才以上二十五才未満の日本人。
- ▼試験
 - 七月末簡単な試験を十日町で行ないます。
- ▼給与
 - 七六〇〇円から(衣食支給)
- ▼手続き
 - 希望の方は役場受け付けまでおいでください。

とさるふ

ハダカ電球が、まっぴるま頭の上でつけっぱなしの街路というものは、清潔感とか美観にはおおよそ縁遠い存在であるし、なによりも、気持のうえでは不経済なことだと思つて電柱や軒ばたにとりつけた街灯はさほど目ざわりでもなく、むしろ、そのあかりには郷愁をそよものささえる。しかし、千手の中央通りに見かけるように、道路の真上からさがっているそれは、ときとして見苦しい気がする。とくに、冬は雪で路面が高いから、すぐ目さきにとびこんでくる空中灯はめざわりなシロモノにも思へた。街灯がひるまもつけたまま不経済だろつという、クロウト筋には笑われるかもしれない。たしかに、電力は蓄積が自由でなく、常に流していなければならぬから、つけっぱなしであつたロスが他に及ぼす影響もほとんどなからう。支払う料金もメーターに関係なく定額とあつて、この辺ではあながち不経済ときめつけもできないのである。それを承知しながらあえて気持のうえで不経済といつてみるのも、表現はまずいが、生活の規律といった意味のことを問題にしたいからである。不経済と云ふ気が打算以上のものを生み出しはしないだろうか。▲きけば、町が補助金をだして、千手商工会のキモ入りで街路灯を設備するとか。各町内も協力するといふ。町のメン・ストリートが、これまでに以上で整然としか美しくなり毎日の往還が楽しければ、生活もまた規律を生みださるう。(2)

一 国保の窓口よりお知らせ

療養費の申請から

現金支給まで

国保の診療取り扱い機関でない(被保険者証のきかない)お医者さんにかかったさい、一時現金にて全額支払い受領証を国保へ提出して、現金の支給を受ける療養費の申請と現金支払いまでの期間、方法等について、今後次のように取り扱いを一定にいたしますのでお知らせします。

まず、療養費の取り扱いをするものは、原則として県外の被保険者証のきかない医療機関にかかった場合、歯科の補てつ(入れ歯)の代金、整形外科に必要なコルセット等の補装具の代金等が対象となります。そして、受領証を毎月

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

- 木村 一雄 幸治長男 室島
高橋 春美 正二女 室島
南雲 普 守三男 中仙田
佐藤 功 春男長男 霧谷
佐藤 厚子 信二女 小脇
齊木 信行 幸威二男 小脇
江口 孝子 武男長女 小白倉
小堀 良和 文夫長男 小白倉
小林 力 善作二男 新町
富井 登 正雄二男 上野
清水ひろみ 清司長女 上野
高橋 洋子 寅三二女 仁田

たかき—御田満に

- 北村奈保子 進二女 学校町
渡辺 敏子 勉二女 鶴吉
小林裕美子 英一長女 中屋敷
高橋 利幸 健吾二男 伊友
新邸 上村 謙吉 上野
新邸 高橋 節子 伊友から
新邸 宮田 真一 山野田
新邸 中島ヨシイ 十日町から
新邸 高橋 嘉右 坪山
新邸 児玉 ミサ 稲葉から
新邸 佐藤 周三 中屋敷
新邸 佐藤マサエ 霧谷から
新邸 高橋 弘 中屋敷
新邸 今井 喜子 飯田市から
新邸 滋野 由孝 野口

としても、一日も早く支給ができるよう努力いたしますが、以上のようなしないですから何分よろしくお願ひします。(国保係)

石油類の

火災予防について

昨年の県内火災件数は八百六十件ですが、原因別に分けると、石油類による火災が「マッチ」「コタツ」について三位、六十三件となつています。これらは、御承知のとおり石油コンロ等、石油類を使用する器具が大変多く普及されているからです。

- 清水 光子 上町から
増田 義則 室島
新邸 星名 ヒサ栄電所通から
新邸 北村 雄二 山野田
新邸 山本 佳子 高田市から
新邸 小幡 藤策 仁田
新邸 藤巻 綾子 真人町から
新邸 藤巻 健一 山野田
新邸 馬場 征子 小泉から
新邸 上村 力 上野
新邸 佐藤スズイ 北波坂から
新邸 星名松太郎 沖立
新邸 佐藤クマノ 水沢村から
新邸 登坂 敬 岩瀬
新邸 高橋 ミイ 中仙田から
新邸 高橋 義徳 伊友
新邸 中村 チエ 坪山から

お祈りです。現実の問題としても石油類による火災の延焼は考えられないほど早いものですから、量の多少を問わず、置き場所に安全な場所を選びたいものです。タバコなどは、案外とこまかまわず吸うものですから危険です。これらの器具が増加しているにもかかわらず、消火器はほとんど普及されておられません。水で消えれば仕方がよいのですが、水ではかえって拡がりますから、石油火災によくきく消火器が必要になってきます。

- 高橋 幸吉 学校町
水落美代志 東下組から
新邸 教藤 幸平 沖立
新邸 安永世津子 鹿兒島から
新邸 南雲 源三 中仙田
新邸 高橋トイ子 赤谷から
新邸 丸山 和徳 根深
新邸 中条 タヒ 大倉から
新邸 清水 京平 上町
新邸 井ノ川キイ 田沢から
新邸 小林 文子 木島
新邸 酒井 秀治 山谷から
新邸 茂野 長栄 藤沢
新邸 松本 貞子 東京都から
新邸 中村 昌弘 岩瀬
新邸 茂野 容子 藤沢から
新邸 相崎 勝一 沖立

川西の発展を祈る

町のみなさま、田植えはもうすみましたでしょうか。毎号の広報に、家を中ひっぱりだこで読んでおります。あんなに遠くに任んでいて、どこでお嫁

町の声

故郷を出た当時はよく泣いたものでした。でも、今はもう、わたしたちの子どものころとは違つた、住みよい明るい町になりましたですわね。りっぱな学校が建ち、舗装道路ができ、すばら

- 吉川 幸子 大磯町から
五十川春雄 沖立
新邸 林 キエ 小泉から
新邸 富田 幸二 学校町
新邸 富田 珠枝 学校町から
新邸 丸山 讓 下原
新邸 丸山 サト 根深から
新邸 川崎 栄樹 桐山
新邸 小川 昌子 栃ヶ原から
新邸 高橋 幸一 高倉
新邸 高橋 セン 高倉から
新邸 高橋 由平 上野
新邸 諸橋トミ子 栃尾市から
新邸 相崎政五郎 沖立
新邸 羽鳥 カズ 伊友から
新邸 茂野 幸雄 藤沢
新邸 樋口 芳枝 中仙田から
新邸 上村 トマ 上野

昇天—御めい福を祈る

- 小林 民二 寺尾
新邸 佐藤安津子 伊東市から
新邸 樋口 茂 上野
新邸 高橋 ヒサ高 山から
とめているものが数多くあります川西町でも、今春伊勢平治で消火器の実験を行ない、多くの申込みをしていただき普及しております。火災予防にご協力ください。

昭和35年国勢調査

大字別世帯数および男女別人口の概数

川西町

Table with columns for village name, household count, and population (male, female, total). Lists various villages like 中島町, 山野田, etc.

この数は概数であり、後日総理府統計局で公表する数と異なる場合がある。



保育所の子ら

町はいまネコの手も借りたいほどの農繁期、ことしも11カ所の季節保育所が開設された。子どもたちは砂山づくりにいそがしい。山ノ根季節保育所で 金山良晃撮影

▼橋診療所に 熊谷先生着任
十二月末以来、欠員であった橋診療所の内科担任医師として、日本大学医学部出身の熊谷正大(くまがいまさはる)先生が着任、六月一日から診療を始められました。
▼うれしいこと
山ノ根季節保育所に、同部落出身の稲越加代子さん、中村クニ子さんからたくさんの絵本、レコードが贈られました。
▼忘れもの
五月二十八日、役場出納係の所に、みどり色のしんげん袋をお忘れになった方がありますので、取りにお出でください。(係まで)
▼かわにし俳壇について
好評のかわにし俳壇、続けて掲載いたしますから、ふるって応募してください。はがきで編集係あて投句のこと。シメキリは毎月末季節保育所が次のように開設されています。

Table listing facilities (施設名), children counts (児童数), and dates (日数) for various locations like 山ノ根, 伊友, etc.

◎部 落 通 信◎
今度赤谷では青少年三十八名が自主的に青年学級の開設申請を行ない、赤谷青年学級として仲間づくりから自分たちの問題を、自分たちの手で学習することになり、今後非常に期待をかけられている。
これで川西町では四学級百五十名となったわけです。

編集後記
※「とんでもないことになった」をくりかえしながら、編集の仕事が肩に重くのしかかっているような感じがする。しかし、ひきうけたからにはフアイトもある。
※一号からあらためて読みかえしてみたり、まず当用漢字、かなづかいの勉強と、まさに広報のインスタン卜修養。自分の間、心細い状態がつづいても、三十一号にいたるのうばな遺産があつてみては責任感もひとしおというところ、旧に倍する指導をお願いしたい。
※田植のあわたたしさも一息ついて、田の面に小雨がけむり、深みを増してきた青葉が心にしみるかのようです、時まさにきびしい暑さをむかえる前のいこのひととき、一日をつつがなく。